

児童が主体的に学び合い、高め合う授業づくりを目指して

越前市武生東小学校

1 はじめに

児童が、日常的にタブレット端末を使って、学習に取り組むようになった。これからは、児童がタブレット端末を「文房具」のように使いこなし、級友と協働しながら、より質の高い探究ができるような授業づくりが必要だと考えている。それが、「深い学び」につながるからである。本校では、以下のような研究・実践を行った。

2 研究・実践

① 校内研修体制の組織化

研究主題「主体的に学び合い、高め合う児童の育成～全員の資質・能力を高める授業作りを通して～」のもと、本年度、まずは、タブレット端末を使って、多くの情報を集めたり、異なった考えを出し合い、それらを比較・検討したり多面的に分析したりながら、「深い学び」につなげていくことに焦点をあてて、研究を行った。

研究を進めるにあたり、「主体的・対話的で深い学び」について

<1>「主体的」...自分の学びを自分でコントロールできること。

見通しを持って取り組み、振り返り、次につなげること。

<2>「対話的」...異なる多様な他者と対話すること。

異なる考えを持った級友・地域人材・書籍など

<3>「深い学び」...キーワードは、つながること(知識・技能をつなぐ)

「事実的で個別的な知識」から「概念的で構造的な知識」への深まりのように、共通理解をした。

② 個別最適な学び、協働的な学び

学期が進むにつれて、児童が課題解決に向けて、タブレット端末、本など必要な学習ツールを選択できるような学習、お互いに考えを交流させながらより質の高い考えを構築する、協働的な学びの学習を重視するようになっていった。

③ 基礎基本の重視

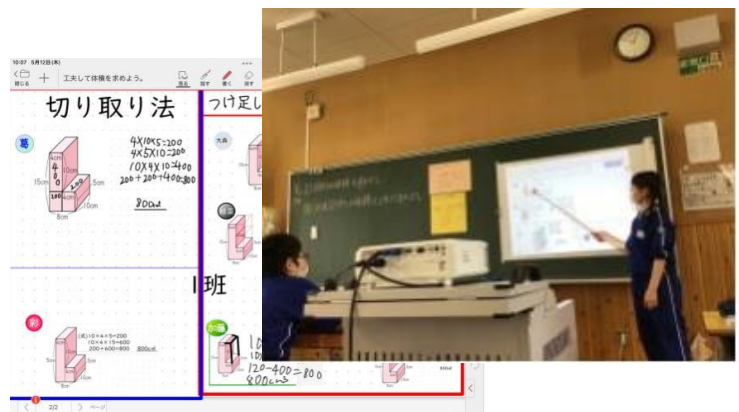
基礎基本がしっかり定着することで、「児童が主体的に学び合い、高め合う授業」につながると考え、音読、漢字習得など「基礎基本の定着」に関わる現職教育を行った。

④ 1人1授業の実施

「児童が主体的に学び合い、高め合う授業」のイメージ及び、児童の学習効果がより高まる指導技術を共有するために、1人1授業を行った。12月までに、全員が授業を公開し、事後研究会を実施した。



5年算数科。複合図形の体積の求め方を小グループごとに集まり、小グループで集約した。求め方の分類と検討このグループは、話し合いの結果、複合図形の体積の求め方を2種類に整理し、クラス全体で共有した。



4年社会科。各自、必要な学習ツールを使って、写真資料を読解し、タブレット端末に根拠を載せて、レポート提出した。



3 成果と課題

児童が、タブレット端末を使いこなすようになり、なおかつ協働的に取り組むことで、質の高い考えを構築できるようになってきた。さらに、上の写真のように、課題解決に向けて、児童が、タブレット端末、本などを必要な学習ツールを選択したり、個もしくはグループで取り組むかを選択したりして、学習を深める学級が出てきた。今後も、児童がさらに主体的に学び合い、より「深い学び」をもたらすように、研究・実践を進めていく。